２０２６年度町田市保健所運営協議会　会議録要約

・日　時：２０２６年１０月１９日（月）　１９：００～２０：５５

・場　所：市庁舎３階　３－１、３－２、３－３会議室

・出席者一覧

区分	所属	氏名	出欠
学識経験者	北里大学　医学部	堤　明純	出
	杏林大学　保健学部	勝又　里織	出
	町田こころのホスピタル	宮地　英雄	出
	昭和女子大学　食健康科学部	調所　勝弘	出
医療関係団体の代表	一般社団法人　町田市医師会	山下 弘一	出
	公益社団法人　東京都町田市歯科医師会	戸羽　一	出
	一般社団法人　町田市薬剤師会	佐藤　康行	出
	公益社団法人　東京都獣医師会町田支部	芳賀　寛典	出
	町田市民病院	金崎　章	欠
市民団体からの選出	町田市民生・児童委員協議会	井上　由美	出
	町田市町内会・自治会連合会	川畑　一隆	出
関係行政機関の代表	警視庁町田警察署	鵜飼　隆司	出（代）
	警視庁南大沢警察署	海老原　健	出（代）
	東京消防庁町田消防署	村上 元	出（代）

※出：出席、出（代）：代理出席、欠：欠席

※敬称略

・要旨

発言者	内　容
	１．委嘱式
	２．開会
事務局 事務局	**３．報告** **（１）保健所運営協議会について** （資料２に基づき、報告） **（２）「まちだ健康づくり推進プラン 24－31」について** （資料３に基づき、報告）
事務局 保健総務課長 Ｉ委員 事務局 Ｂ委員 事務局 会長 事務局 Ｈ委員	**４．議事** **（１）「まちだ健康づくり推進プラン２４-３１」の進捗について** （資料４に基づき、説明） ［（１）は委員からご意見、ご質問なし］ **（２）２０２５年度事業実績及び２０２６年度事業計画と進捗状況** （資料５、参考資料１に基づき、保健総務課の事業について説明） 災害時の医療提供体制についてはどこに問合せればいいのか 災害時の医療救護体制については保健所保健総務課である。問い合わせ内容により、所管課を案内する。 健康教育講座の YouTube 視聴可能期間はどのくらいだったのか。 参考資料１のとおり。 ACP 冊子が好評とあるが、講演会での周知だったのか。 冊子は高齢者支援課が中心に普及啓発をしている。ワンストップロビーに配置し、１日 20～30 冊配布した。 ACP 冊子、救急医療情報キット共に実際に使うための周知方法を

	工夫できないか。
事務局	ACP 冊子については高齢者支援課でさらに手に取りやすい新たな冊子を作成・配布している。 救急医療情報キットについても、町プロと高齢者支援課で対応しているが、保健所からもイベントなどを通じ情報発信をしていきたい。
D委員	ACP とエンディングノートは異なり、ACP は何度も書き直しできる。今の自分の思い、考えを家族と相談、共有するものであるため、もっと気楽なものとして使ってほしい。
Ｉ委員	救急医療情報キットは配布をしても、実際の使い方が分からない人が多い。
D委員	救急医療情報キットは持ち出すことは出来ず、救急隊員がその場で必要な情報を見るためのもの。情報が多すぎると、必要な情報が得られない。使い勝手と使い方について理解を深めていくことが必要。
会長	医療救護活動訓練に参加した感想など伺いたい。
Ｆ委員	やるたびに新たな気付きや反省点が出てくるので、継続することは大切だと感じた。出席者が固定されつつあるので、多くの出席者に参加してもらえるとよい。
健康推進課長	（資料６、参考資料２に基づき、健康推進課の事業について説明）
D委員	子どもの自殺に関連して、若者のオーバードーズの話があるが、オーバードーズによりギリギリ自分を保っている子もいて、単に止めさせるだけでは解決しない場合が多い。相談窓口の案内なども併せて必要では。
事務局	「ダメ。ゼッタイ。」普及運動は重要であるが、ご意見にあるような実態があることを踏まえ、体に与える悪影響への理解を促すことや悩みの相談先などの啓発を行うなど、１つのことだけではなく、多方面からの情報発信ができる体制構築をしていきたい。
Ｂ委員	オーバードーズは自殺対策協議会でも話題に上がる。軽度の方には

	ゲートキーパーが、重度の方には医療が、行政と関係者（機関）が一体となりアプローチしていければと考える。
会長	層別して対応していくことが大切。
Ｆ委員	学校薬剤師が小中学校で薬物乱用の話をしている。薬物乱用とは違い、オーバードーズについては説明が難しい。薬剤師会で作成したリーフレットの配布などの啓発している。
H委員	オーバードーズが原因の自殺が多いのか。
Ｂ委員	オーバードーズをする理由が自殺のためなのか、現実から逃げるためなのか、はたまたオーバードーズが原因で事故が起きて死亡したのかの判別はできないが、事故は防げるものなので、やれる取り組みをしていく必要がある。
H委員	子どもたちに気軽に相談できる場所があるということを知れる機会を引き続き作ってほしい。
Ｂ委員	ゲートキーパーや行政が一体となり、よい結果につながっていると思う。
保健予防課長	（資料７、参考資料３に基づき、保健予防課の事業について説明）
Ｉ委員	健康づくり推進員については、２年任期での選出依頼が来るが、保健所からの支援がないので、何をしたらよいのか分からないと言う人が多く、参加者が減っているのではないか。がんばって参加している人もいる一方で、推進員によってイメージも異なっているのが現状。環境資源部では、廃棄物減量等推進員の参加人数は同じように減っているので、仕組みを変える検討をするらしい。健康づくり推進員の取組み自体を見直すべきではないか。 また、市内各地で子ども食堂が展開されているが、保健所でのサポートはあるのか。
事務局	健康づくり推進委員については、２０２６年度は活動例やチェックリストを記載した資料をハンドブックとともに同封している。今後の取組は検討材料とさせていただきたい。
事務局	子ども食堂は子ども家庭支援課が所管している。直接保健所が関わ

	ることは無いが、食堂開設時に衛生管理等の相談があれば指導、助言を行っている。また、食育ボランティアが個人で関わっている場合がある。
H委員	食育について、高齢者に対する出張講座などはあるのか。 また、子どもの不安定さは、親の不安定が原因であること多くみられるため、心のケアの関係団体に繋げてもらいたい。
事務局	保健所では４０歳から６４歳を対象とした健康教育を実施しているが、年齢制限を設けない対面型の講座も実施している。出張型の講座については、高齢者支援課の方で実施していると聞いている。
C委員	「食育すごろく」は若い世代に食に興味を持ってもらうために、食育の基本を知るという意味でよい取り組み。また、食に興味のない人へのアプローチとして、食に関する環境の整備を進めていきたいと食育推進委員会では考えている。
保健予防課 母子保健担当課長	（資料８、参考資料４に基づき、保健予防課　母子保健担当の事業について説明）
A委員	産褥期の死亡は、昔は出血によるものが多かったが、現代は産後鬱を原因とするものが多くなるなど、産後ケア事業の重要性が増している。その中で産後ケアの利用率が高まっているのはよいこと。また父親向け事業として『父親向け相談カード』の配布は、父親も子育ての当事者という意味でもよい取り組みと思うが、利用率などは分かるか。
事務局	2026 年度からの取り組みのため実績は出ていないが、来年度に向け相談件数など実績を確認したいと考えている。
A委員	最近は働く妊婦が多いが、面接の実施率が高いので工夫点があれば教えてほしい。
事務局	しっかりサポート面接を土曜日に実施している。
会長	父親向けのメンタルサポートも大切だと思うので、引き続き取り組んでいただきたい。
I委員	産後鬱になった時の相談窓口や状況対応の仕方が分かれば教えて

	ほしい。
Ｂ委員	早期発見が大切。健診や産後ケア事業などで多くの人と関わって、気づいた人が専門医療機関に繋げられるよう支援してもらえるとよいと思う。
Ｉ委員	産後に母親が入院した際に、短期間の市の支援はあるが、それ以上になった場合は。
事務局	産後ケアの宿泊型が７日間までである。それ以上については今後検討していきたい。
H委員	保健師の赤ちゃん訪問の際に、地域の支援者として民生委員という存在があることも伝えてほしい。
事務局	大変ありがたい。民生委員の存在について今後紹介していきたい。
Ｂ委員	産後鬱というと鬱にしか対応できないが、「周産期メンタルヘルス」というと産前から広く救うことができる。早期発見が大切なので、次につなげる準備をしていくことが大切。産科と精神科の連携などは今後の課題。
事務局	歯と口に健康についてはいかがか。
Ｅ委員	最近は未熟で生まれてくる子が多いせいか口の発達が悪い子どもが多い印象がある。口の発達状況が確認できるような健診などの場があるといい。
事務局	今後の健診見直しの際に参考にしたい。
生活衛生課長	（資料９、参考資料５に基づき、生活衛生課の事業について説明）
Ｇ委員	高齢者が動物を飼うことのトラブルが増えている。アメリカではシニア・フォー・シニア（保護センターから高齢の動物を高齢者が引き取り、飼い主が亡くなり飼えなくなった場合、次の高齢の飼い主に引き継ぐという取組み）という社会で支える体制がある。日本ではこのような仕組みが無いため難しいが、一時的に保護できる場所を作り、動物を飼いたい人と繋ぐネットワークができると問題解決につながると思う。

	同行避難はペットと一緒に避難はできるが、避難所に入れないという課題がある。熊本地震の際、ペットの避難場所としてトレーラーハウスを用意して一時的に避難をさせた事例もあるので、避難場所の確保についても検討してほしい。 健康推進課事業にも関するが、自殺対策の件では、教育委員会と「いのちの授業」を年3回実施し、動物とのふれあいを通じて命のぬくもりの大切さを教えている。メンタルケアの部分でお手伝いできればと思う。 アメリカでは動物との関りが人の精神面に良い影響を与えるという研究がある。今後、取り組みが広がっていく可能性があると思う。
D委員	保護犬は譲渡に年齢制限があるのが残念。
H委員	飼うことを諦める高齢者も多いので、シニア・フォー・シニアのような素晴らしいシステムが日本にもあるといいなと思う。
会長	ペットはポジティブに働く成果も出ているので、うまく連携していけるとよい。
	（3）「まちだ健康づくり推進プラン24－31」の中間見直しについて （資料１０，１１―１～に基づき、説明）
D委員	アンケートは紙ベースなのか
事務局	送付は紙ベース、回答は紙ベースかネットでの回答を想定。
H委員	保護者宛のアンケートの宛名はお子様の名前か。
事務局	詳細についてはまだ決まっていないが、お子さんが複数いる保護者もいるため、誰の保護者として回答をしてもらうのかが分かるような形で作成する。
Ｉ委員	回答率を上げるためにどんな工夫をするのか。市の別の部署が実施した市民アンケートで、アンケート期間中に督促状を送付し、回答を促したという取組みがあった。そのような方法も検討し、回答率を上げるよう努めて欲しい。
事務局	設問数の削減や、表題の変更などをする。その他の点についても、引き続き検討していきたい。

会長	議事は全て終了したが、全体の中で伝えたいご意見・ご質問等はないか。
Ｆ委員	薬剤師会で地域健康推進委員会を設置した。出張講演会を幅広いテーマで企画しているので、ぜひご活用いただきたい。
Ｉ委員	「健康づくり」というと複数部署で行っている。「健康づくり」の問い合わせ先をまとめる部署など検討してほしい。
	５．閉会
事務局	以上で保健所運営協議会を閉会します。本日は誠にありがとうございました。